

暑さも和らぎ、鈴虫の音色に秋の訪れを感じる今日この頃ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？朝、晩は肌寒い日もありますので、風邪など引かれませぬ様、ご留意下さい。



医学部医学科公開説明会(オープンキャンパス)が実施されました。

8月4日(金)に医学部医学科公開説明会(オープンキャンパス)が実施されました。参加者は約300人に上りました。第3講義室において、配布資料を受け取り後、着席して頂きましたが、通路に補助椅子を幾つも並べるほどでした。まず、松山教授に入試説明を行って頂きました。参加者の皆さんは、皆、真剣に耳を傾けていました。岡学長、谷澤医学部長にご挨拶をして頂いた後、参加者の皆さんは、体験学習と基盤系研究室見学へと移りました。体験学習は、病理形態学講座、高次脳機能病態学講座、産科婦人科学講座にご協力頂き、実施しました。参加者の多くは医学研究や臨床の現場の一端に触れるのは初めてで、とても興味を持って取り組んでいる様子でした。昼食後、附属病院施設である、総合周産期母子医療センター、クリニカルスキルアップセンター、放射線部、先進救急医療センターのスライド紹介を行い、続いて、在学生との懇談会を実施し、盛会のうちに終了しました。

参加者の皆さんにとって、今回のオープンキャンパスが山口大学医学部をよく知り、入学したいと思うきっかけになったのではないのでしょうか。



日本医学教育学会大会で発表してきました。

8月18日(金)、19日(土)の2日間にわたり、第48回日本医学教育学会大会が「地域と共に医学教育を発展させる」をテーマに札幌市で開催されました。医学教育学講座から、2名の教員が演題発表を行いました。多くの質問を受け、考察を深めることができました。様々なシンポジウムが開催されましたが、『アクティブ・ラーニングの実践例の紹介』と題したシンポジウムでは、アクティブ・ラーニングの意義・あるべき姿について述べられ、「我が国の医学教育は、伝統的に教員の一方的な講義形式による受動的な学びが中心であるが、医学生は能動的に学び、教員は学生自身の学習意欲を刺激し、準備を促し、学修を支援するようなカリキュラムや教授法を採用すべきである。しかし、アクティブ・ラーニングを取り入れている一部の現場では、『身体的には、活動的だが、学生は考えることをしていない』と揶揄される状況も生じており、アクティブ・ラーニングの目的が見失われつつあると危惧されている。アクティブ・ラーニングの本来の目的は、『学生に深く学ばせること』

であり、そのためには、『教員が何を教えたか』から『学生が何を学んだか、何を身につけたか』へパラダイム・シフトする必要がある。」といった講演内容でした。他者との協働を通じて、実際の事例から課題を発見・解決していくといった手法がよく用いられますが、個々の教員が教育上の諸工夫を行うことの必要性も述べられていました。「学生が何を学び、修得することができるか」という視点に立って、講義や実習を行う重要性を再認識することができ、今後活かしていきたいと思いました。



臨床実習入門・臨床実技基本実習の説明会を行いました。

9月11日(月)より、臨床実習入門・臨床実技基本実習が始まっていますが、9月1日(金)にその説明会を実施しました。臨床実習入門・臨床実技基本実習は、小グループに分かれて行う実習と多職種連携教育・臨床推論基本演習の大講義の2種類から構成されており、まず、実習を行います。ビデオやシミュレーターの使用、学生同士でのロールプレー等、様々な方法を用いて、実技を主とした診療参加型臨床実習に必要な基本的事項を学習できる様、計画されており、この実習が、11月18日(土)の共用試験OSCEに繋がっていきます。11月20日(月)

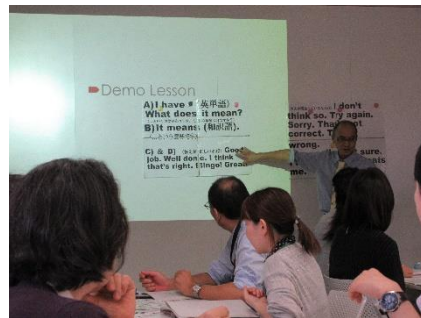
からは、多職種連携教育・臨床推論基本演習を行います。こちらは、全て座学授業で、臨床実習を行う際に必要な総論的な知識を補充します。

本実習にしっかりと取り組み、共用試験OSCE、診療参加型臨床実習に活かすことができる様、様々な手技、知識を修得してほしいと思います。



「アクティブ・ラーニング (AL) ベストティーチャー表彰記念FD・SDワークショップ～第1回 AL ベストティーチャーによる模擬授業～」に参加しました。

9月26日(火)に本学吉田キャンパスの共通教育棟1階・15番教室(アクティブ・ラーニング教室)において「アクティブ・ラーニング (AL) ベストティーチャー表彰記念FD・SDワークショップ～第1回 AL ベストティーチャーによる模擬授業～」が開催されました。まず、山口大学国際総合科学部教授 上田真寿美先生による模擬授業が「深い学びにつなげるアクティブ・ラーニング型授業『山口と世界』」とのタイトルで行われました。今後の講義内容や評価基準に関して、学生が想像できるように詳しく丁寧に説明されていました。作業記録書の添削も必ずコメントを添えて、スタンプを利用されているとのこと、学生が楽しんで学べる様に工夫されているのが印象的でした。続いて、山口大学非常勤講師 尊田望先生による模擬授業が「英語が嫌い」から「英語が楽しい」に変えるアクティブ・ラーニング」のタイトルで行われました。我々も班ごとに分かれ、自己紹介や語彙ゲーム、Q&A演習、コミュニケーションゲーム等を行いました。山口県内の高等学校教員や他大学教員等、本学教員以外の参加も多数あり、皆さん楽しみながら取り組んでいる様子でした。「アクティブ・ラーニングは、学生を野放しにするのではなく、ある程度の枠組みの中で行う必要があります、教員は学生に教え込むのではなく、学生のやる気、積極性、能力を引き出すことに集中する必要があります」といったお話でした。教員側の一方的な講義ではなく、学生が積極的に参加するアクティブ・ラーニングの重要性を再認識することができた良い機会となりました。



ご意見・ご要望等につきましては、医学教育センターへ
お願いします。 TEL: 0836-85-3747

E-mail: mec01@yamaguchi-u.ac.jp